ひるま矯正歯科のニュースレター

ひるまだより vol.58

医療法人社団トモニアユム
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office

発行:ひるま矯正歯科　発行日:2014年7月20日
〒190-0012 立川市曙町2-9-1菊屋ビルディング2F　TEL:042-526-3376/FAX:042-528-1102
URL:http://www.hiruma.or.jp/

身体全体に対する意識を変えてもらえたことに感謝！

患者さんインタビュー 26▶▶▶▶▶▶Kさん

インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページでご覧下さい。

◆矯正治療を始めたきっかけを教えてください。

――左上の犬歯が八重歯だったのが気になっていたのと、上の歯全体が前に出ていて、特に奥歯がかみ合っていない状態でした。社会人になり、上司や取引先のお客さんと会食する機会が増え、かみ合わせの悪さが原因で品の悪い食べ方になってしまうのがいやだなあと思い始めたのがきっかけです。

◆医院選びはどのようにしましたか。

――職場が立川なので、インターネットなどで立川周辺の矯正歯科を探しました。ひるま矯正歯科は、清潔感のある医院の雰囲気が気に入ったのと、畫間先生の説明がとてもていねいでわかりやすく、誠実な印象を受けました。また、海外に研修に行って勉強していることも聞き、安心して治療を受けられると思いました。

検査の結果上顎の左右4番、下顎の左右5番の計4本を抜歯してから矯正装置をつけましょうと提案されました。また、上顎と下顎のずれが大きいので、上の歯をできるだけ下げるため、アンカースクリューによる治療をすすめられました。アンカースクリューは怖さも感じましたが、実績があるという説明を聞いて受け入れることができました。

◆治療中、歯並びが改善してきたことを実感できたのはいつごろですか。

――治療を始めて1年後くらいの時に、左上の八重歯の位置がだんだん下がってきているのに気づきました。鏡を見てそれを確認できたときは、とてもうれしかったです。きちんとした治療を受けると本当に劇的に美しくなっていくのだなあと、しみじみ思いました。

◆右の1番の前歯をセラミックの歯にしてもらったのですね。

――20代の時に、かかりつけの歯科でむし歯だと診断され、その時に神経を抜いたのです。畫間先生から、神経を抜いた永久歯はどうしても茶色っぽく変色してしまうので、人工の被せものをすることをすすめられました。セラミックの歯にしてもらうと、歯全体の印象がすごく良くなってびっくり！ メンテナンスをきちんと続けてこの白さを持続したいと思います。

◆ひるま矯正歯科で治療を受けてよかったですか。

――本当によかったです。畫間先生はひとつひとつの処置もすごくていねいで、治療の最中は無駄な時間が全くない。私たち患者と会っていない間に万全の準備をしてくれているのだろうな、ということが良く伝わってきます。

ひるま矯正歯科で治療をしていただいて、歯は身体のほかの部位ともつながりがあることを感じました。畫間先生の誠実な矯正治療のおかげで、自分自身の身体全体に対する意識を変えてもらえたことに、とても感謝しています。

初診時

アンカースクリュー

動的治療を開始した後、前歯を後退させる臼歯部の固定源を強化するために、上顎の大臼歯歯根付近にアンカースクリューを埋入しました。アンカースクリューは、動的治療終了時の検査後、除去しました。

動的治療終了時

保定終了時

右上1番のセラミック補綴物

セラミック補綴物、制作時（写真左）と口腔内装着時（写真右）。セラミックの補綴物を装着し、ホワイトニングをした事、定期的なメインテナンスとリテーナー管理を行った事で歯はより白く艶も出ました。

Kさんの症状について解説します

●初診時の診断：「中立咬合　叢生歯列　両突歯列」

Kさんは、臼歯関係は左側が強い Angle class II で上顎大臼歯が下顎大臼歯に対して近心（前方）に位置していました。上下顎前歯部に叢生、上顎左側犬歯の低位唇側転位（八重歯）を認めます。また、上顎右側１番は失活歯のため歯が暗褐色に変色していました。治療方針は、上顎の抜歯部位を４番、下の抜歯部位を５番として歯列の前後的な位置のズレを改善しやすくし、上顎歯列を十分に後退させるために上顎大臼歯部にアンカースクリューを埋入する方針としました。前歯の変色に対しては動的治療が終了し、保定期間に歯を削ってセラミックの被せものを接着する事で対応する方針としました。

動的治療終了後は、前歯が後退し、八重歯が改善されたため口唇の突出感や緊張感は改善されました。スマイル時の口唇と前歯の配列のバランスが改善されたものの右上１番の変色により審美性は不十分でした。臼歯関係は左右ともに Angle class I になり上下歯列の正中は一致しました。

保定期間中に右上１番にセラミックによる補綴処置を行いました。保定期間中に咬合状態はより安定し、叢生の後戻りなどは無く、前歯部の審美性、スマイル時の口元の審美性は向上しました。咬合状態もより緊密になっています。